

平成 19 年度 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
 現地検討ワーキンググループ現地検討とりまとめ
 議事概要

- ◆日 時 平成 19 年 7 月 18 日 13 : 00 ~ 15 : 00
- ◆場 所 大台ヶ原ビジターセンター
- ◆出席者
- <委員>
- | | |
|-------|---------------------------|
| 川瀬 浩 | 日本野鳥の会奈良支部 副支部長 |
| 高田 研一 | 高田森林緑地研究所 所長 |
| 高橋 裕史 | 森林総合研究所関西支所 |
| 高柳 敦 | 京都大学 講師 |
| 田村 義彦 | 大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長 |
| 野間 直彦 | 滋賀県立大学 講師 |
| 日比 伸子 | 橿原市昆虫館 学芸員 (18日の現地視察のみ参加) |
| 村上 興正 | 元京都大学 講師 |
| 横田 岳人 | 龍谷大学 講師 |

(以上敬称略)

<事務局>

- | | | |
|----------------|-------|-----------|
| 近畿地方環境事務所 | 高橋勝志 | 野生生物課長 |
| | 西野雄一 | 自然保護官 |
| | 櫻澤裕樹 | 自然保護官 |
| (株) 環境総合テクノス | 樋口高志 | 環境共生部リーダー |
| | 保延香代 | 環境共生部 |
| (財) 自然環境研究センター | 永津雅人 | 第三研究部長 |
| | 千葉かおり | 第二研究部長代理 |
| | 荒木良太 | 研究員 |

◆ 議事

- (1) 防鹿柵設置検討箇所について
- (2) シカ捕獲等について
- (3) 実証実験について

(1) 防鹿柵設置検討箇所について

●地点1について

・沢筋に張る場合は両生類への配慮が必要。また、(設置位置は地点1に限らないが、)歩道から柵が見える部分で、昼食や休憩が取れるスペースを設定し、そこに解説板等を設置して、登山者へのサービスと普及啓発の両面をきちんとフォローしていくことを検討してほしい。(※)

・七ッ池の大規模防鹿柵を一部取り除いて、西大台利用調整地区の利用者に配慮した解説板等の設置を検討してほしい。

・西大台の防鹿柵については解説板の設置を検討すべき。

・ガイド制度導入後は防鹿柵の中に利用者を案内することについても検討して欲しい。利用者が防鹿柵の内と外の違いを考えることが出来るようにして欲しい。

・解説板には見るべきポイント(着目すべき植生など)を記入しておくが良い。

・[事務局]説明内容や設置の可否について今後検討していきたい。

・地点1については流水部分まで含めた1つの柵とするか、流水部と斜面上部で別の柵とするか、2通りのやり方がある。

・溪畔林の植生保全については重要な課題であるので、技術的な設置手法を含めて検討する必要がある。

・溪流部に設置する柵の下部は固定しないすだれ型が有効である。また、沢の下流の網は、大水が出たときは外れるようにする手法や、ワイヤーメッシュを沢に沿うように入れる手法などが考えられる。

・地点1の流水部分については実験的な柵を別途設置することを検討すべき。

・また、防鹿柵で囲ったことによる効果を把握するために、防鹿柵で囲わないコントロール地点も検討しておいた方が良い。

・[事務局]予算や施工業者とも相談して、設置の可能性を今後検討していきたい。

●その他の地点について

・地点2, 3については本年度中に緊急に設置する必要性は低い。湧水地(地点3より上流部)については植生だけでなく、動物、特に両生類の生息環境として重要な地点であり保全が必要。両生類の専門家へのヒアリング等検討すべき。

・西大台については、林冠ギャップに着目して現況の植生等を整理し、防鹿柵設置箇所の5ヶ年計画の検討に活かすべき。

・地形的に、ヤマト谷、カツラ谷には適地がまだ存在しそうだが、中ノ谷、ナゴヤ谷は急峻すぎて、防鹿柵の設置には不向きである。

●その他防鹿柵について

・西大台に防鹿柵を設置することについては、利用調整地区であることを踏まえ、利用者

へ配慮をしてほしい。

- ・ギャップ地は森林更新の場として保全の重要性も高いが、このような明るい場所は利用者の好む場所でもある。利用者が気持ち良いと感じる場所に防鹿柵が設置されていることを考慮し、教育的な面にも配慮をすべきである。

- ・〔事務局〕利用者への配慮については、本年度中に検討する植生保全対策の5カ年計画も含め、調整を図っていきたい。

- ・既存の大規模柵については、シカに侵入された場合の保険的な意味合いから、柵内に区切りを設け、いくつかに分割することを検討すべき。

- ・柵の内側で植生が回復するとシカにとっての魅力が増し、より侵入される危険性が高くなるので、定期的に侵入の有無を確認を実施すべき。

※はとりまとめ会議後のヒアリング内容

(2) シカ捕獲等について

- ・植生保全の観点からも、西大台でのシカの胃内容物を把握するべき。

- ・定点、ルートセンサス調査で、東大台では100頭前後、西大台では20頭前後の目撃があった。ドライブウェイ沿いでは夜間20頭から30頭の目撃がある。

- ・西大台では生息密度が低いので、GPS 個体の捕獲には困難が予想される。また、西大台に猟友会が個体数調整を実施することが技術的に困難なのであれば、当面は生息密度の高い東大台で個体数調整を実施し、目標達成に努め、その間を西大台の捕獲準備期間とするべき。

- ・今後の捕獲方法の検討として、くくり罠も検討、試用する必要がある。

- ・東で装薬銃を用いた個体数調整を行うと、西へ移動する個体がでるのではないか？

- ・西大台の個体は西谷からの個体で構成されており、三津河内から稜線をまたいで移動してくる個体もいるようである。東と西では移動元の生息地が異なるので、東から西への移動は起こりにくいと考える。

- ・冬期、個体が低地に移動した後、限られた移動ルートである尾根（堂倉山の尾根など）をネットで数百メートル遮断すれば効果が期待できるのではないか。

- ・以前の調査で得られたGPS の位置情報については、「植生（自然環境保全基礎調査）」、「航空写真」による解析が必要である。

- ・〔事務局〕林野庁が国有林内において糞粒法調査を開始する予定なので、大台ヶ原周辺での生息状況もより詳細に把握できる可能性がある。また、関係機関が持っているデータを共有し、今後の保護管理に役立てることも検討している。

- ・ 今後は林野庁に対してWGへの参加を呼びかけるべき。
- ・ 日出ヶ岳～正木峠の西側の森林は急傾斜であり、獣道が出来やすく、2次侵食も起きやすい。

(3) 実証実験等について

- ・ 柵内ではイチゴ類等いままで生育していなかったものが増え始めている。
- ・ 数年に一度は柵内すべてのフロラ調査をするべき。特に平成20年度までに一度整理する必要がある。
- ・ 柵の内外における違いを統計学的に示す必要がある。数年に一度、サンプル数を増やして調査を実施する必要がある。
- ・ 推進計画の見直し時には、もう一度調査計画を見直す必要がある。
- ・ [事務局] 柵内のモニタリングについてはH21年度の実施計画の見直しに向けて詳細を検討したい。

[文責 近畿地方環境事務所]